



岩崎恭子 氏



連合駿台会報

No.311 平成25年9月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052 千代田区神田小川町三十二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三三) 三二九六一四七七
 印刷 有限会社 美創

連合駿台会七月例会

「幸せはいつも自分でつかむ」

スイミングアドバイザー
 バルセロナ五輪金メダリスト
 岩崎恭子氏

連合駿台会平成二十五年七月の例会を、七月十七日(水)十八時より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、岩崎恭子氏をゲストスピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、山口政廣会長から次のような挨拶がありました(挨拶主旨)。

今年の日曜日が参議院選挙だが、インターネットが使えるということで、まず選挙管理委員会のホームページから入ってみたが、候補者名と党名は出てくるが、どここの党にどういう候補者が、ということになると、画面では字が小さすぎるため、スクロールしながら拡大しなくてはならないのは面倒だし、候補者個人のホームページに入るとすると、

そこにはアドレスがないので、私にとっては思ったより不便だった気がする。

いま気になっているのが、アメリカの元国家安全保障局員のエドワード・スノーデン氏が、米連邦捜査局(FBI)と国家安全保障局(NSA)が、インターネットや通話記録を極秘裏に監視していた事実を、実名で暴露したことだが、情報を聴いていると、いろいろな側面が見えてくる気がする。十二年前の二〇〇一年の九月十一日に同時多発テロが起こったのを契機に、危機感を募らせたアメリカは「愛国者法」という法律を作って、個人情報を含めた情報収集の強化を図った。ブッシュ政権下ではこれに多くの予算を組むようになり、また国家安全保障局長は軍隊も動かせるというように権力の一極集中化が図られ、ある意味では大統領の権限を上回るようにさえなった。今回の事件ではオバマ大統領も苦慮しており、法律を是正するチャンスでもあり、また国民からすれば内部告発者として英雄視される面もある。一方、政治的側面、共和党と民主党という面からみれば、別な見方もできるのかもしれない。亡命問題も含めて、今後の成り行きを見ていきたい。

連合駿台会は、例会の間の月(偶数月)に運営委員会を開催し、かなりいろいろなことが検討されている。会員の増強と啓蒙、例会への出席率を上げること、大学支援なども踏

まえて、どういう会にしていったらよいか、方向付けが固まったら、理事会あるいは皆さんにお諮りしたいと思っている

また、会を活発化するため、今秋には様々な行事が予定されている。十月には若手を中心にビジネス勉強会、家族なども参加していただく東京湾クルーズ、さらに十一月の例会前には、新入会員歓迎会なども企画している。本日の講師は岩崎恭子さんということ、久しぶりに女性の講師をお迎えでき、また二〇二〇年の東京オリンピック招致活動の真ただ中でもあり、大変楽しみにしている。

当日の講演にしましては、先方からの希望により、内容(要旨)を載せることができませので、広報委員の相臺志浩氏の例会報告を掲載させていただきます。

*

今回はバルセロナ・オリンピック金メダリストでスイミングアドバイザーの岩崎恭子さんをお迎えし、『幸せはいつも自分でつかむ』というテーマで講演いただきました。岩崎さんはご主人が明治大学ラグビー部主将だったということで明治大学にご縁があります。

講演の中で、水泳選手で共通しているものは「負けん気」があること、メダルを取る人に共通し備えているものは「素直さ」があること、というお話しでしたが、これは私達企業

人にも言えることではないかと思えます。

最後に一人一人に金メダルに触れさせていただきましたが、綺麗であると同時にズシリと重く感じました。これが厳しい練習を乗り越え、競争に打ち勝ってきた重みであると思えました。

昨年のロンドン・オリンピックでのメダラッシュでしたが、これは個人プレーからチームプレーに転換したからだとのこと、今後日本競泳陣に期待したいものです。

【講師略歴】

岩崎恭子(いわさき・きょうこ)

五歳より姉の影響でスイミングスクールに通い始める。一九九二年、一九九六年と二度のオリンピック出場を果たし、十四歳で出場した九二年のバルセロナ五輪では二百メートル平泳ぎで金メダルを史上最年少で獲得した。

九八年競技生活引退後は、アメリカへ児童の指導方法を学ぶために留学。現在は、水泳の指導ならびに水泳の楽しさを伝えるためのイベント出演を中心としながら、メディア・トークショー出演、執筆活動などを精力的に行っている。シドニー、アテネ、北京、ロンドンオリンピックでは現地からオリンピックの視点で詳しく様々な情報を日本へ発信するスポーツコメンテーターとしても活躍。また、二〇一一年春に第二子を出産。母親としても日々奮闘中。

◆広報委員会からのご案内(理事会議事録)

日時：平成二十五年七月十七日(水)十七時
場所：明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新推薦会員承認の件

欠席の丸山委員長に代わり、上西副委員長から入会薦書が提出されている大野正美氏、水野智史氏、池田利幸氏の三名について、組織・会員増強委員会では入会を承認したという報告があり、全員異議なく承認された。

○各委員長よりの報告事項

委員長の連絡会議にあたる運営委員会(第七回)が六月十七日に開催されたので、報告事項がある委員長から、委員会報告をしてもらうことにする。

〈総務・事業委員会 河村副委員長〉

先般、六月十一日に、昨年につき第二回目の大学新設見学会を実施し、中野キャンパスと駿河台グローバルフロントを見学した。

例会以外の今後の予定としては、まず十月には二つの新規事業を考えている。一つ目は大幅に増えた新会員の定着および新しい事業への興味付けという意味合いも兼ね、「ビジネス研究会」を十月二日(水)十八時より、「紫紺館」四階会議室で開催する。人数は四

十〜五十人を想定して進め、講師は谷財務委員長にお願いすることになっている。二つ目は、十月十九日(土)、家族を含めた親睦会として「東京湾サンセットクルージング」(十五時三十分集合、十六時二十分〜十八時二十分までのトワイライトクルージング)を企画。十一月は、十三日(水)に「第五回連合駿台会オープンゴルフコンペ」(於…我孫子ゴルフ倶楽部)を、また二十日の例会の前(十七時〇〇〜十七時五十分、於…紫紺館六F「ラウンジ明治」)には、初めての企画として「新規会員歓迎会」を開催する予定でいる。

年内の事業・企画はだいたいこれで決まっているが、詳細については、暫時、ご案内していく。

〈大学支援委員会 舟橋委員長〉

四月にスタートしたキャリア教育講座は、商学部的一年生約百二十五名を集めて、三社の企業にお願いして、先週末に二回目の発表会が終わった。来週、横井商学部長を含め、反省会と来年以降の検討会を行う予定。

恒例の連合駿台会寄付講座については、前期(春期)は、六月二十一日(金)十九時より、Jフロントリテイリング社長の山本良一氏に講演していただいた。後期(秋期)は、当会の会員でもある佐々木伸一氏(ルートルック・ネットワークス社長・昭和五十五年工学部卒)にお願いする予定。

二〇一三年度の駿台懇話会の日程については、来年の一月二十二日(水)にほぼ内定している。

本日配布したパンフレットの通り、九月四日、明治大学リバティアカデミー特別オープン講座「宇崎竜童×阿木燿子 ライブ&トーク―音楽の原点と明治大学―」(於…中野サンプラザ)を協賛することになった。料金も二千元と格安なので、是非ともご協力いただきたい。

〈広報委員会 齋藤委員長〉

新しく新入会員に推薦された方が、ホームページからご連絡されてきたことを伺い、大変嬉しく思っている。今後はカウンター制も導入して、どれくらいの方がアクセスしてくれたかを確認すること、また、ホームページに何か記事等を載せたい方を募るなど、魅力あるホームページ作りを検討していきたいと考えている。

〈財務委員会 谷委員長〉

第一四半期(四〜六月)が終了したので、次回の理事会で発表する予定である。今後も収入の確保とそれに伴った内部活動の充実が求められていると思う。

〈組織・会員増強委員会 上西副委員長〉

今年度は三十五名の新規入会者の獲得を目指しているが、現在の「入会基準」が実態と合致していないのではないのか? という

ことを委員会でも検討中である。前年度も討議してきた実績の延長上で、どういう形に条文を見直すかの目鼻をつけたい。その方向性が決まったら、理事会に提出して、みなさんのご意見を伺いたいと思っている。

また、新入会員の定着も大きな課題であり、四月二十六日に「若手の会」を開催したところ、活発な意見が聞かれたが、これも一回で終わらせるのではなく、近いうちに再度実施して、若手の意見をもっと尊重していきたい。

〈六十周年記念事業について 山口会長〉

本年度は若水クラブ創立から数えて六十周年にあたるので、できれば来年の総会前までに(多分三月頃か?)、例会の延長になるかもしれないが、何かしら趣向を凝らしたいと思っている。

○その他

坏専務理事から、次のような説明があった。ご承知の通り、会員の渡邊美樹氏が参議院議員に立候補しており、当会の会員にも勧誘のハガキが来ている方がいるようである。渡邊氏の入会にあたっては、もし政治活動をするのであれば会員としては望ましくないと、という話が当初からあった。したがって当会の会員だからということ、特別の扱いや支援などをすることは、「連合駿台会」としては考えていない。

当会の「規定」(「新会員推薦に関するお願い」)では、入会の基準を、①上場、公開企業の役員、及びそれに準ずる人、②資本金三千万円以上のオーナー経営者、③弁護士など資格のある人の中で、その組織の役員、及びそれに準ずる人、④評論家、芸術家などの著名人、又は会員として迎えるに相応しいと思われる人、としている。さらに(注)として、「上記はあくまでも目安であり、絶対条件ではありません。また、地方自治体などの議員等は原則として、入会要件を満たさないものとしています」と記載されている。

これに対して、以下のような意見が交わされた。

・「地方議員」というのはどういう意味なのか? 国会議員は例外ということなのか?

それは村山元総理も会員だからなのか?

↓若水クラブ時代には三木元総理がいらしたこともあり、国会議員までいった人はどうするのか? という問題はあつたのだと思う。しかし渡邊氏の場合、東京都知事への立候補時期に前後して入会を希望されたため、それは問題があるという理由で保留にしていた。結論(都知事選の結果)が出た後で、あらためて入会したいという要請があり、理事会に諮って入会を承認したが、いまだ一度も例会に出席したことはない。今後どういう扱いをするかは、皆さんの意

志で決めるべきだとは思いますが、少なくとも選挙活動に対する支援を現時点ではすべきではないと思う。国会議員になっても、当会に会員として出席されるのかどうか? また先ほどのルールについても、「地方議員」というのは絶対条件ではなく、あくまでも目安として考えている。

・若水クラブにはやや政治色が強い面もあった(実際、自分が衆議院選挙に出る時にも明友クラブだけでなく若水クラブにも入会した...)が、政治活動は禁止だった。それはどの党だからということではなく、政治色が強くなると、連合駢台会の存在感も難しくなるので、今後、一切禁止すべきだと思ふ。ましてや一度も例会に出てこない人は論外であり、関わるべきではない。

↓今の話は、一つのコメントとして何っておく。少なくとも特定の立候補者あるいはそういうことを計画している人を、会員とすべきではないということの見解はずっとあつたと思ふ。

・これほど問題にするのは、いまここでルールや内規を決めるということなのか?

↓ここで新しいルールを設定するのではなく、皆さんの主旨に沿って内規あるいは準ずる文言を作成し、理事会にお諮りしたいと思ふ。

・会員が立候補して当選した場合は、どう扱

われるのか? 退会、休会のいずれかになるのか?

↓ルールはないが、理事会に諮って、どう対応すべきかを決定することになると思ふ。今後、立候補される方も出てくるかもしれないが、当会としては、いたずらに妨害することはすべきではないと考える。ただし、立場が変わった場合は、もともとの入会の基準に立ち返り理事会に諮るべきだと思ふし、どうするかは、今後考えていくべきだと思ふ。ただし今回の渡邊氏の場合、入会時からそういう話があり、当会の主旨とは反する面があるのではないかと思ふ、理事会に諮らせてもらった。

【報告事項】

○第十六回ホームカミングデー(十月二十日)の福引景品寄贈について

会員としてホームカミングデーに景品を出すのは是非ともお願いしたいが、会としてはプログラムの三分の一ページ相当の広告(前年度と同じスペース)の掲載代金として、五万円を捻出することでご了解いただきました、という報告があつた。

これに関して、以下のような意見があつた。昨年の寄付は、一昨年の半分にまで落ちたのが現状である。個人としては一〜二万円が多いようなので、皆さんにも寄付をお願い

いしたい。また、広告には副会長名が掲載されているのに、副会長の方からの寄付が少ないようなので、是非ともご協力していただきたい。

↓どういう寄付をされるかは会員の判断に任せたい。大学あげての行事なので協力は惜しまないが、当会としてはお願いにとどめることにする。以上

◆新入会員ご紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略)



みずの 智史
平成十四年・商学部卒
匠税理士事務所・税理士
東京都目黒区在住



おのの 正美
昭和五十九年・法学部卒
㈱中村屋・執行役員
東京都練馬区在住



いけだ 利幸
昭和六十一年・工学部卒
三機工業㈱
東京支社空調衛生設計部長
千葉県白井市在住



たかはし 一夫
昭和五十七年・政経学部卒
大和証券㈱・専務取締役
東京都葛飾区在住



あいざわ 淳一
昭和五十九年・工学部卒
大和証券㈱・常務取締役
(グローバルマーケット副本部長)
東京都足立区在住

◆明大ニュース

●「明治大学アセアンセンター」

タイで開所式

明治大学は八月五日、本学第三の海外拠点となる「明治大学アセアンセンター」(タイ国バンコク市)の開設を記念し、開所式およびレセプションを同市内のシェラトン・グランデ・スクンビットホテルにて挙行了。日高憲三理事長や福宮賢一学長ら本学関係者のほか、日本大使館関係者、タイをはじめとする東南アジア諸国の各大学関係者、現地の校友ら約百人が一堂に会し、「世界へ」の新たな一歩を盛大に祝した。

●二〇一三年度・定時代議員総会を開催

明治大学校友会(会長 向殿政男・名誉教授)は七月二十八日、駿河台キャンパスリ

バテイホールで二〇一三年度の定時代議員総会を開催した。代議員総会は校友会の会則が定める重要事項を審議・決定する会議で、当日は代議員総数六百人中、委任状を含め五百十二人が出席。大学からは来賓として、日高憲三理事長、福宮賢一学長をはじめ役員が出席した。

冒頭あいさつに立った村山富市名誉会長は、「今や明治大学は、単に日本の明治大学ではなく、世界に飛躍する、世界に多くの活躍できる人材を送り出す、そういう大学に発展していくのだと感じた」と述べ、戦時中に韓国から明大へ留学していた学生の日記に書かれていた「厳しい思想統制の中で、明治には自由があった」という一節を紹介。「明治大学は、厳しい状況の中でも『権利自由』という大学の基本精神をしっかり守り続けてきた。そういう輝かしい伝統をもった明治大学だから、これからどこにも負けない。なるほど日本の明治だ、なるほど世界の明治だ、というような大学に発展する可能性を十分もっている。その実現に向けて一層力を合わせて頑張らなければならない」と力強いメッセージを發した。

●「ひざ軟骨再生医療」一般化への道拓く

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート(代表 長嶋比呂志農学部教

授)はこのほど、「ひび軟骨再生医療」の一般化に欠かすことのできない細胞シートを、必要な時にすぐに使えるように常にストックしておく保存法「新規ガラス化凍結法」の開発に成功した。また、同研究所に所属する東海大学医学部の佐藤正人教授が、世界初となる細胞シートを使ったひび軟骨再生治療の安全性を確認する臨床研究を行い、治療を受けた四人全員が、一般生活に復帰するという目覚ましい成果を挙げた。

●大学ブランドランキング

「志願したい大学」明大が五年連続一位
リクルート進学総研が七月二十四日に発表した「高校生に聞いた大学ブランドランキング」(進学ブランド力調査二〇一三)で、明治大学が関東エリアの「志願したい大学」で五年連続一位を獲得した。

●「留学生に勧めたい大学」

文系部門で第一位

全国の日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先を選ぶ「日本留学アワーズ」表彰式が八月六日、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターであり、本学は大学文科系部門(東日本)で一位を獲得し、二年連続トップの栄冠を手にした。大学院部門でも政治経済研究科がノミネートされた。

●二〇一三オープンキャンパス 過去最高五万九千人が来場

明治大学は、受験生らに向けてキャンパスを開放し、大学生活の一端を体験してもらう「オープンキャンパス」を八月、駿河台・生田の両キャンパスを中心に開催。計六日間で、延べ約五万九千人の中高生やその保護者らが明治大学を訪れ、キャンパス周辺は多くの人でにぎわった。

●国家公務員総合職試験に十六人が合格

人事院は六月二十四日、中央省庁の幹部候補となる国家公務員採用総合職試験の二〇一三年度最終合格者を発表した。明治大学からは十六人が合格(前年度十五人)し、うち女子は七人(前年度同数)が合格した。

●オリ・パラリレーセミナー in 明治大学

東京オリリンピック・パラリンピック招致委員会と連携協定を結ぶ明治大学は七月三十一日、校友でパラリンピック金メダリストの秋山里奈氏(二〇一三年法研修了)を講師に迎え、「オリ・パラリレーセミナー in 明治大学」を開催。オリリンピックをもっと身近に！二〇一二年ロンドン金メダリスト・里奈先輩のキセキを和泉キャンパスの図書館ホールで開催。和泉キャンパスに通う一・二年生や学外からの聴衆約五十人が来場した。

●新宿タカシマヤに「植物工場」 十二月末まで展示中

明治大学植物工場基盤技術研究センター長の池田敬農学部准教授とNTTファシリティーズは八月六日、二〇一一年度から行ってきた共同研究の成果を広く社会へ発表する活動の一環として、新宿タカシマヤタイムズスクエア十二階イベントスペースに「植物工場サイエンスギャラリー」を開設した。

●畑でトマトのソバージュ栽培講習会

農学部の元木悟准教授(野菜園芸学研究室)は八月九日、生田キャンパス南圃場でトマトのソバージュ栽培(露地放任栽培)講習会を初めて実施した。営利生産に取り組みづるの農家や、イタリアンレストランのシェフ、家庭菜園愛好家など約八十人が、トマトを野性的(ソバージュ)に育てる露地放任栽培の可能性について熱心に耳を傾けた。これは、東日本大震災からの復興のため、既に確立された技術シーズを組み合わせ、最適化するための大規模な実証研究の一環。その成果は復旧・復興に活用し、成長力のある新たな農業を育成するために、岩手県農業研究センターを代表機関として、本学ほか九機関が共同で、農林水産省「食料生産地域再生のため先端技術展開事業(岩手県内)」として、本年から五年間取り組む。

●東京都議会議員選挙 明大校友当選者

六月に実施された東京都議会議員選挙で新たに以下の明治大学関係者の当選が判明した。※敬称略・丸付き数字は当選回数

両角 穰（もろずみ・みのる）

五十一歳・みんな①（八王子市）

一九八五年政経学部卒。

●参院選 校友四人が当選

「ねじれ国会」の解消や、ネットでの選挙運動解禁が注目された第二十三回参議院議員選挙は七月二十一日、投票票があり、明大出身者四人が当選を果たした。当選したのは、選挙区で二人、比例代表で二人で、四人中三人が初当選。当選者の略歴の紹介とともに、「現代日本における世論と選挙に関する実証研究」を研究テーマとする政治経済学部の井田正道教授が今回の参院選を振り返る。

※敬称略・丸付き数字は当選回数・年齢は投票日現在

【選挙区Ⅱ二人】

高橋克法（たかはし・かつのり）

五十五歳・自民①（栃木県）

一九八一年法学部卒。

松山政司（まつやま・まさじ）

五十四歳・自民③（福岡県）

二〇〇五年商学部卒。

【比例代表Ⅱ二人】

赤池誠章（あかいかい・まさあき）

五十二歳・自民①

一九八六年政経学部卒。

渡邊美樹（わたなべ・みき）

五十三歳・自民①

一九八二年商学部卒。

●明高 卒業生の活躍を顕彰

付属明治高等学校は、七月二十七日、駿河台キャンパス紫紺館で卒業生顕彰式を挙行。大学マーク作者や、学部長奨励賞を受賞した現役明大生、司法試験・公認会計士試験の合格者など卒業生十三人を表彰した。

●第十六回ホームカミングデー

校友をキャンパスに迎え、校友同士の交流を深める第十六回「ホームカミングデー」を十月二十日十一時～十七時、駿河台キャンパスで開催する。本学の卒業生はもちろん、家族、友人を連れて参加できる。

●金融紫紺会が発足

明治大学金融紫紺会（会長・森宮康・名誉教授）が本年三月に発足した。同会は、銀行・証券・保険をはじめとして金融界に携わる明大OB・OGが多数所属し、二カ月に一度を目安に定期的に明大OB都銀役員、本学ビジネススクール教授等による「無料セミナー」

を開催している。

●聖マリアンナ医科大学と包括協定を締結

明治大学と聖マリアンナ医科大学（神奈川県川崎市）は七月三日、教育・研究活動の交流と連携の推進を目的とした大学間交流に関する包括協定を締結した。調印式は、駿河台キャンパス・リバティタワー貴賓室で行われ、福宮賢一学長と聖マリアンナ医科大学の三宅良彦学長が協定書に署名した。

●川崎信用金庫と産学連携協定

明治大学研究・知財戦略機構は七月八日、地域の中小企業の技術支援などを目的とした産学連携協定を、川崎信用金庫と締結した。同機構と金融機関との連携協定締結、川崎信用金庫の大学との連携協定締結はともに初めて。今後、明治大学の研究と中小企業ニーズのマッチング、中小企業の技術相談などの分野で協力を進める。

●博物館「岩宿遺跡出土品」初の海外出展

韓国公州市にある石壮里（ソクジャンリ）博物館で七月十五日に開幕した「日本旧石器の始まり「岩宿」特別展に、本学博物館所蔵の国指定重要文化財「岩宿遺跡出土品」（一九七五年指定、登録番号344）のうち二十九点が展示された。「岩宿遺跡出土品」

の初の海外展示となった。

●戦没学徒忠霊慰霊祭を開催

明治大学戦没学徒の御霊を慰め鎮める忠霊慰霊祭が七月十日、新潟県護国神社で執り行われ、日高憲三理事長らが参列した。

「忠霊殿」は、学徒出陣などで戦死した戦没者を祀る霊廟。戦時中まで駿河台キャンパス旧図書館内にあつたが、新潟県出身校友の尽力により、一九五〇年に新潟県護国神社に移された。二〇〇六年、同神社の厚意により、本殿脇に「明治大学戦没学徒忠霊殿」として新たに建立され、以後毎年、理事長ら大学関係者が同地を訪れ、校友会新潟県支部とともに慰霊している。

●大学情報サミット大会五大学

明治大・慶應大・法政大・立教大・早稲田大の五大学情報システム部門は六月二十七日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで、第六回大学情報サミット大会を開催。各大学の情報部門の最高責任者をはじめ、関係者約百人が参加した。

●国際総合研究所シンポ「日本のコーポレートガバナンスのあり方を考える」

国際総合研究所は七月二十二日、駿河台キャンパス・グローバルフロントで、コーポ

レートガバナンス研究会によるシンポジウム「日本のコーポレートガバナンスのあり方を考える」を開催した。会場となったグローバルホールには、企業関係者や研究者を中心に約二百人が来場して満席となり、コーポレートガバナンスのあり方や同研究所への関心の高さをうかがわせた。

●ポランティアセンター（災害救援班）AED体験&応急手当講習

千代田区との防災協定に基づく「災害救援ボランティア講座」修了生らで組織される「災害救援班」は七月十一日、本学ポランティアセンターとともに、駿河台キャンパス・リバティタワー六階会議室で、「AED（自動体外式除細動器）体験&応急手当講習」を開催。災害救援ボランティア推進委員会の協力のもと、定員二十人の講習を、時間帯を分けて三回実施した。

●商学部 企業とタッグ

「産学協同就業力養成講座」

商学部と各種企業のタッグによる総合講座「産学協同就業力養成講座」を受講する同学部一年生は七月十一、十二日、四月からの学習成果の総決算として、新規事業創設や売上の向上など、各企業から与えられた課題に対しての最終プレゼンテーションを和泉キャンパスで行った。

ンパスで行った。

同講座は商学部一年生を対象とした総合講座で、ビジネスの現場で各企業が実際に直面する課題や事例に、学生たちがグループワークやフィールドワークを通じて取り組むもの。今回初めて、明治大学OBの経済人が組織する「連合駿台会」（会員数約四百五十人）が、会員の所属する企業三社から現役社員六人を派遣し、学生に向けて講義を実施。りそな銀行、ホテルグランドパレス、京王電鉄など、名だたる企業の協力の下、商学部の木村乃、樋渡雅幸両特任准教授が授業を担当した。

●四大学合同企業説明会を開催

明治大・中央大・法政大・日本女子大の四大学は、二〇一四年三月卒業の学生を対象にした合同企業説明会を七月八日と九日の両日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催した。説明会には、メーカーや専門商社、IT企業など約百二十社がブース出展。学生たちは、熱心にメモを取りながら事業内容や採用職種などの説明に耳を傾けていた。

●明大生が「全商品リサイクル活動」を開催

法学部生有志と国際交流サークルMIF Oのグループは、七月八〜十日の三日間にわたり、「全商品リサイクル活動」を和泉キャンパスで開催した。これは昨年、ユニクロを

通じて難民の方などに不要な衣類の送付ができることを知った飯場慧さん（法2）が、同じ語学クラスの仲間呼びかけて始めたもので、今回で二回目。

●世界に広がる協定校

四十カ国・地域二百二十大学と協定

明治大学は、ハノイ国家大学人文社会科学部と大学間協力協定を新たに締結した。協定校は四十の国と地域で、二百二十大学（学部間協定など含む）となった。

●「英語圏大使館合同留学フェア二〇一三」を開催

明治大学国際連携本部（本部長＝勝悦子副学長）は七月二十日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで、「英語圏大使館合同留学フェア二〇一三」を昨年に続き開催。明大生のみならず海外留学を希望する中高生、大学生、社会人ら約五百人が来場し、熱心に相談していた。留学資料配布コーナーでは、インターネットでは得られない最新留学情報も提供され、多くの資料を鞆に詰めて持ち帰る姿が見られた。

合同留学フェアは、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダの大使館や公的機関など計九団体が参加。国や機関別にブースを設置して、来場者の相談に応じるほか、IE

LTSブースでは模擬面接も行われた。

●セルビア大使とベオグラード大学長が来訪

セルビア共和国のボヤナ・アダモヴィッチ・ドラゴヴィッチ駐日大使とウラディミール・ブンバシレヴィッチベオグラード大学長が七月九日、駿河台キャンパスを訪れ、リバイタワー貴賓室で勝悦子副学長（国際交流担当）および加藤志津子経営学部教授と懇談した。

ブンバシレヴィッチ学長は、二〇〇九年に本学との間で締結した学術交流協定に言及し、「二〇一四年に期限を迎える協定内容の改訂など、更新に向けてともに検討を始めましょう」と提案。勝副学長は「ベオグラード大学はセルビアのトップスクール。ぜひ協定を更新し、学生交流も活性化させたい」と応じた。

●EU講座 駐日大使らが明大で講義

国際連携機構は、グローバル人材育成プログラム科目として、今年度新たに「地域研究講座（EU講座）」を開催。欧州連合（EU）および加盟国大使館の関係者をゲストスピーカーとして招へいし、駐日大使や外交の専門家らが自国やEUの政策、日本との関係について講義を行った。

●カランメソッド

反射的に英語で返答「英語脳」訓練

このたび、明治大学グローバル人材育成推進事業の取り組みの一つとして行われた「実践的英語力強化プログラム」の「カランメソッド」。英語に対するパターン認識と処理スピードを「英語脳」を徹底して訓練するこの学習法は、その特訓講座を受講した明大生全員のTOEICスコアが向上するなど、学生の間でも評判を呼んでいる。

●国際日本学部

中野キャンパス移転記念シンポジウム

国際日本学部は六月二十九日、中野キャンパス移転記念シンポジウム「ニッポンの未来と創造」を、同キャンパスホールで開催した。世界で活躍する建築家・安藤忠雄氏を招いての講演、さらに、テクノロジーとアートを融合させた作品を生み出すチームラボ株式会社を代表取締役社長・猪子寿之氏と国際日本学部・高山宏教授による対談が行われ、中野キャンパスホールを埋めつくした聴衆は講演と対談を満喫した。

●法学部「Law in Japan Program」を開催

法学部は、日本の法と法制度を英語で学ぶ夏期短期集中講座「Law in Japan Program」を七月二十九日～八月九日に開講した。今年

は、イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・オーストリア・ポーランド・アメリカ・カナダ・メキシコ・オーストラリア・ニュージーランド・シンガポール・タイ・中国の計十四カ国から学生・社会人が二十五人、さらに本学法学部生五人、計三十人が参加した。

●国際連携機構

[Cool Japan Summer Program 2013]

国際連携機構は七月二十二日～八月二日、日本文化の多様な側面と魅力を伝える短期集中講座「Cool Japan Summer Program」を開催した。これは海外在住の留学生を対象に、開講しており、今年で四回目。世界八カ国（シンガポール、アメリカ、マレーシア、中国、フランス、オーストラリア、イギリス、イタリア）から学生二十一人が参加し、国内外で活躍する十七人が講師を務め、英語で講義を行った。

●建築・都市デザイン国際ワークショップを開催

中野キャンパスでの国際プロフェッショナルコース開設を受けて、理工学研究科建築学専攻は八月三～九日、「建築・都市デザイン国際ワークショップ」を同キャンパスで開催した。今年協定校等から十九人の外国人学生を中野キャンパスに招いて実施。八カ国

十校から多様な国籍の学生が参加し、本学側の二十三人の参加学生（留学生二人を含む）と合計四十二人が八つの混成チームに分かれて、英語で共同作業を行った。

●高校生のための先端数理科学見学会開催

明治大学大学院先端数理科学研究科は八月九日、東京都高等学校数学教育研究会などとの共催で、「高校生のための先端数理科学見学会」を中野キャンパスにて開催。参加した十四校八十人の高校生たちは多彩な講義や実験を通じて、最先端の数学が身の回りの現象の理解や、生活・産業に幅広く応用されていることなどを学んだ。

●校友会大韓民国支部

台湾支部の役職者を招き懇談会を開催

二〇一三年度の校友会定時代議員総会の前日となる七月二十七日、日高憲三理事長は大韓民国支部および台湾支部の関係者を招き、駿河台キャンパスのグローバルフロント十七階グローバルラウンジで懇談会を開催。日高理事長をはじめ大学役員と、向殿政男校友会長ら校友会役員、両国の関係者ら約三十五人が集った。

●阿久悠記念館来場者三万人記念イベント

明治大学阿久悠記念館は七月二十日、来

館者三万人を記念したトークイベント「『甲子園の詩』を語る―阿久悠の紡いだあの名勝負―」を駿河台キャンパス・リバティタワーで開催。元NHKアナウンサーの榊寿之氏の司会で、夏の甲子園審判を二十年務めた林清一氏、スポーツニッポン記者の宮内正英氏らが、阿久悠の見つめた甲子園について熱く語りあった。

●二〇一三年度夏休み科学教室を開催

理工学部は八月九日、地域社会貢献を目的とした「夏休み科学教室」を生田キャンパスの各校舎を使用して開催した。小学校一年生から高校三年生までを対象として、約六百人（保護者含む）が参加した。

●学び体験フェア マナビゲート二〇一三

明治大学は八月十七、十八日の両日、東京・有楽町の東京国際フォーラムで開催された「学び体験フェア マナビゲート二〇一三」に、無人移動ロボット操縦ブース（黒田洋司理工学部教授・ロボット工学研究室）を出展した。楽しみながら学ぶことのできる明大を含む十六大学のブースには、二日間で約三万人が来場した。

●小学生が「一日図書館長」に挑戦

駿河台キャンパスにある中央図書館は八

月二日、小・中学生に図書館長の仕事を体験してもらったイベント「一日図書館長」体験を開催した。二〇〇九年から始まったこのイベントは、大学図書館の社会貢献の一環として行っており、参加者の子供たちに図書館の仕事を通じて大学図書館の重要性を知ってもらうとともに、子供たちの視野を広げ、社会性をつちかう機会を提供することが目的。今年、約四十人の応募があり、「読書が大好きで図書館の仕事を体験してみたい」という小学校六年生の三人が選ばれた。

●小学生夏休み社会教室を初開催

専門職大学院会計専門職研究科は八月二日、小学生夏休み社会教室「会社とはなに？」会社の経営とお金のおはなし」を駿河台キャンパスのアカデミーコモンで開催した。これは、小学生に企業経営や会計を通して現代社会の仕組みを学んでもらい、同研究科が使命とする高度職業人を育成するためのすそ野を広げることを目的としたもので、今回が初開催。教室には定員の二十人を超える小学生が集まり、身近な例を元に企業経営や会計について学んだ。

●明治大学で宮崎の歴史を学ぼう作文コンテスト受賞式を挙

「明治大学で宮崎の歴史を学ぼう作文コンテ

スト」の受賞式が八月二日、明治大学博物館で開催された。この作文コンテストは、明治大学博物館が所蔵する譜代大名内藤家文書と関わりの深い宮崎県の子ども達に、地域の歴史を調べ、ふるさとの歴史を作文で自慢してもらおうと企画されたもの。宮崎県延岡市の小・中学生、宮崎県内の高校生を対象に募集し、百三十九件の応募作品から厳正な審査を経て、受賞者十五人が決定した。

●男子バレーボール部

東日本大学選手権初優勝

体育会男子バレーボール部は、六月二十三日に開催された第三十二回東日本バレーボール大学選手権で、フルセットの末に日本体育大学を下し、初の栄冠を勝ち取った。

●ラグビー部

創部九十周年記念式典

体育会ラグビー部は七月十四日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで創部九十周年記念式典を開催した。式典には、早慶ラグビー部OBなどの関係者も参加し、多くの祝辞が寄せられた。

●日米大学野球

善波監督率いる日本が二大会ぶりV

日米の大学野球代表が覇を競う「日米大

学野球選手権大会」が七月六～十一日、明治神宮野球場など四球場で開催され、本学体育会硬式野球部の善波達也監督率いる日本代表チームが通算三勝二敗で、二大会ぶり十七度目の優勝を決めた。最高殊勲選手(MVP)には、第三戦と最終戦で二勝した関谷亮太投手(政経4)が輝いた。

●海老沼匡「金」

六戦すべて一本勝ちで 世界柔道二連覇

リオデジャネイロで開催された世界柔道選手権大会二日目となる八月二十七日、男子六十六キ級で海老沼匡選手(二〇一二年商学部卒)が六試合すべて一本勝ちで金メダルを獲得。同大会二連覇の偉業を達成した。これで、銅メダルに終わった二〇一二年ロンドン五輪での雪辱を遂げ、二〇一六年のリオ五輪に向け力強い一歩を踏み出した。

◆駿台トピックス

★「宇崎竜童×阿木燿子ライブ&トーク」に参加して

九月四日(水)に、中野キャンパスの開校を祝して、明治大学リバティアカデミー特別オープン講座「宇崎竜童×阿木燿子ライブ&トーク」音楽の原点と明治大学」が中野サンプラザで行われました。

二部構成になっており、第一部では阿木

燿子プロデュースステージということで、阿木さんが主宰する「ひふみレインボーコーラス」を中心に、合唱曲にアレンジされた阿木さんと宇崎さんがプロデュースした曲が演奏されました。なかでもラジオ深夜便から生まれた『涙なんだ』にグッと心を引きつけられました。中盤から明治大学応援団と、明治大学混声合唱団、コーロ・デイ・メイコン、明治大学グリークラブOB会も加わり、二百人からの大合唱団が美声を披露してくれました。

第二部では宇崎竜童スペシャルライブということで、がらりと変わりJAZZ風のステージに。『サクセス』や『裏切り者の旅』などおなじみの曲に私たち観客はすっかり魅了されました。ギターの横田明紀さんと共演したバラードは最高でした。また宇崎さんと観客との掛け合いや手拍子など、ライブならではの感覚を味わいました。

最後にアンコール曲『さよならの向こう側』を出演者全員が歌い、この素晴らしいステージは幕となりました。中野キャンパスの開校とお二人の四十周年、そして中野サンプラザの四十周年という三つのお祝い事が重なったこのオープン講座に参加できて良かったです。

(広報委員・相臺志浩 平成九年経営学部卒)

◆七月例会出席者

青木孝、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、阿部倫明、同ご友人、石川かおり、同ご令嬢、石原道勝、石原裕司、泉山和久、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、宇敷和章、宇田川雄弘、同ご友人、打出満、内田八郎、海野美津雄、大石哲也、大村託現、岡本満夫、同ご友人、押田裕介、加賀美猛、笠井正弘、河村博、木野幸士、木村健一、清末法弘、清野明男、日下豊顕、小柴和弘、小島清治、小谷野正道、小山修、根田哲雄、斉藤春夫、斉藤弘之、斎藤柳光、坂田貞夫、坂田英夫、桜井保彦、佐々木伸一、佐藤和正、佐藤健、眞田瞳、椎名茂樹、志田憲彦、白井宏一、甚野捷、鈴木勝利、鈴木紘一、関根均、宗邦雄、相臺志浩、高澤徹、田中等、谷慈義、田村駿、天童美德(代理)、徳丸平太郎、長岡信裕、中川敏洋、中西幹育、中村欣治、中村豊、長吉泉、西尾勝治、西崎誠次郎、西野晃透、西山武夫、二宮充子、野口昌宏、蓮池信之、長谷川進一、馬場範夫、原田榮、平川清、比良田幸雄、廣渡眞(代理)、福田和彦、富士豊、藤巻伴英、舟橋達彦、益子哲郎、同ご友人、松崎優子、向井眞一、村岡健、室井恵明、山口政廣、山田憲典、山田敏紀、山田朝彦、結城和正、義江邦夫、吉村國廣

【編集後記】

七月の例会でゲストの岩崎恭子さんが、目標を持つことの大切さを話してくれた。

今夏終戦六十八年を迎えた日本。塗炭の苦しみ味わいながら、奇跡といわれるほどの発展を遂げた日本、それは何故できたのか。敗戦国となったが、国民のがむしやらの努力と復興という目標に向けて全国民の頑張りの結果だ。

ひるがえって今日の日本はどうか。政治は混沌、経済は停滞を続けた十有余年だった。参院選の結果、ねじれが解消、安定政権の期待が高まった。しかし課題は多い。TPP・消費税・近隣外交などと山積しているが、これらを克服し経済力を高め、国家の安全保障を確固たるものにしなければ国家の安定はない。しっかりと目標を定め、軸がぶれることのないよう政策運営をしてもらいたいものである。

二〇二五年には七十五歳以上の人が二〇%以上となり、五人に一人が老人という超高齢化社会が急速で進行している日本の現状。一刻の猶予もない、国の進路をしっかりと見定めていく必要と責任がある。

今こそ激動の時代、企業も学校も同様である。母校明大は高校生の志願したい大学ランキングで五年首位となり、誠に結構なこと。新しい学部設置や都心型大学も人気の要因のようにある。これから少子高齢化社会となり、学生は激減の方向にある。名実ともに評価される大学として学校運営も改革を進め、なお一層の「高き理想の」目標を掲げ前進してほしい。

(原田 榮)